

14  
A2394



鐵道經營略説

乙卯年東東京橋濱間鐵道開設始末

我國古来未嘗有大宛と不日と云成効を蒙  
御國益に勿論御國内開化の機是るを  
進三御國威の海亦にお輝き天下譽て  
考りせより考るべきは先づ都下を既  
時勢也

御鴻海にお潤ひを得ん西域東亞と山部  
野嶺と至りし路に未だ開きし所ありし  
かゝる是れ今盛世の風化未だ不及より  
草愚

大正十一年四月  
隈侯爵寄贈



察其依り此際に於て早く鐵道を造りて遠  
境に比隣、亦亦海内一般に風化を得國  
態平均仕儀の、野礮舊來の陋習を一洗仕  
明徳の昭々庶民お及び不先、地は普くお拓  
産物、運輸も自由を得海内融通、造  
お立可申、真に一大美事、と存良既、西  
洋に於ても國を興し第一とせざる可く、少くも  
國の今度鐵道會社を立身元者たる者十  
人として發起人とお定め、西、西京東、青島  
と、兩道お開中、度其費金、後、既、或、千

萬圓と見積り、一株千圓と定め、其の半額を以て  
先づ諸官員舊諸君其他有志の者等、  
在、金とお募り、年五分の利息を以て社中、  
お預り、信り、只鐵道を以て用と為るべし、凡諸  
官員者皆防廢方お存、亦永世不祚、造  
お立可申と國よるもの一要業、と存、今右  
の在、金を以て、維令、家、富、家、を、  
終、六、奸、高、と為、計、以、又、家、富、家、を、  
其、弊、と、不可測、或、又、自、高、業、と、  
高、途、最、難、と、  
て、高、賈、と、家、生、

朝暮其道之博者、者、常、扱、者、多、  
才、て、貴族、逸居、の、方、を、高、法、お、常、  
留、右、必、不、測、の、道、を、謀、り、不、朽、の、道、  
と、多、く、以、り、眼、前、の、利、を、射、り、永、世、の、  
利、を、得、り、こ、こ、者、要、を、存、固、の、鉄、道、株、  
主、と、成、り、悉、く、在、金、を、以、て、此、内、に、加、入、お、成、り、  
奸、商、の、計、を、悉、く、察、し、察、し、察、し、察、し、察、し、  
お、く、永、世、不、朽、の、業、を、以、て、又、利、益、を、得、り、也、  
終、に、南、法、より、大、なる、一、既、に、東、京、橋、本、間、  
を、一、日、貳、千、圓、の、積、り、を、以、て、此、際、要、し、

地、開、効、仕、居、り、一、日、の、巨、業、金、を、得、り、事、期、し、  
各、盛、事、し、り、り、り、石、株、金、お、募、り、お、集、り、  
沿、ひ、由、道、の、徑、始、り、お、掛、り、先、ッ、十、里、間、を、開、通、  
し、其、運、輸、を、開、其、揚、金、を、以、て、又、十、里、を、開、  
し、助、費、を、し、右、準、し、沿、り、開、き、沿、り、運、輸、  
仕、居、り、子、業、園、し、株、金、を、以、て、貳、十、萬、圓、を、  
道、を、開、き、得、り、事、柄、も、お、易、く、沿、り、  
九、二、四、年、の、間、お、積、り、一、戸、を、存、り、  
右、お、募、り、株、金、年、五、万、の、利、息、を、得、り、  
節、と、い、大、藏、御、者、不、法、上、渡、り、下、渡、り、

社にお金一旨、後、開拓の運轉も、事  
不能、其成效速く、其存貯尤も成效  
の上、右、下、渡、利息、金積額を以て、鉄道  
に、株金、お、立、其、全、額、を、存、即日、より、利  
益、金、お、納、り、申、候、又、株、金、募、方、に、先、株  
数、を、定、め、是、月、毎、にお、募、り、全、額、定、額、を、一、ヶ  
年、に、募、り、積、り、或、は、二、ヶ、年、に、募、り、積、り、或、は、三、ヶ、年、  
と、り、募、り、積、り、申、候、又、株、金、募、り、に、先、お、對、候、讓  
任、者、を、申、但、讓、智、の、節、に、會、社、に、於、て、右  
の、前、書、智、お、納、り、申、候、又、加入、人、に、後、の、遠、隔、に、

者、の、聊、便、を、以、て、中、か、株、金、差、出、は、猶、子、  
任、せ、り、申、又、株、金、を、自、誰、彼、と、不、拘、然、効、業、  
に、後、自、の、経、営、に、加、り、勉、強、力、作、せ、り、者、  
其、勉、強、の、差、等、を、一、一、讓、効、し、上、會、社、に  
十、株、と、り、株、を、以、て、者、附、に、後、  
右、の、件、に、賤、陋、に、都、見、出、株、用、に、不、お、成、事  
存、り、得、ん、見、候、事、  
御、及、体、御、首、表、を、以、て、申、申、上、後、偏、御、言、  
葉、し、程、申、候、事、也、

三野村利金門再探記